

当院での便潜血測定装置更新における検査システム運用の取り組みについて

◎高柳 光佑¹⁾、前田 郁子¹⁾、大鷲 和由¹⁾、竹延 由希¹⁾、西本 恵美子¹⁾、堀越 裕子¹⁾、魚橋 志奈子¹⁾、上霜 剛²⁾
兵庫県立丹波医療センター¹⁾、兵庫県立尼崎総合医療センター²⁾

【はじめに】

当院は、敷地内に健診センターを併設しており、健康診断の検査を担っている。免疫便潜血検査（fecal immunochemical testing : FIT）は、主に健診検体であり、1日に約40件程度実施している。これまでは、便潜血測定装置 OC-SENSOR io（栄研化学株式会社）を使用していたが、今回、後継機である便潜血測定装置 OC-SENSOR Ceres（以下：Ceres）を導入した。これを期に採便容器のバーコードを利用したマッチングシステムを新たに構築し、導入したので報告する。

【機器およびシステム】

機器：Ceres

検査システム：CLINILAN GL3（A&T株式会社）

【システムの概要】FITは、通常2日法で実施され、当院の検査システムでは1オーダーについて1日目、2日目の結果を別々に入力できるようにしている。従来、検査システムの到着確認アプリケーションで到着を行うと、1日目、2日目の採便容器に貼る2枚の依頼バーコードが再出力さ

れ、それを手貼りして検査を行っていた。そのため、患者間違いや1日目、2日目の容器を貼り間違えるリスクを起す可能性があった。このリスクを回避すべく機器更新時、検査システムで到着と同時に採便容器バーコードとオーダーを紐づけするマッチングシステムの開発をA&T株式会社に依頼し、導入した。その結果、1つのアプリケーションで到着と同時に、1日目、2日目それぞれの採便容器バーコードを読み込ませることでオーダーとマッチングすることができるようになった。

【まとめ】マッチングシステム構築により別々のアプリケーションを使用することなく1つのアプリケーションで到着と同時に採便容器バーコードとオーダーをシームレスで紐づけすることができるようになった。これにより依頼バーコードの印刷が不要になったためラベルの削減や採便容器に依頼バーコードを手貼りする必要もなくなりラベル貼り間違いのリスクも無くすことができたと考える。

連絡先：0795-88-5200